

熊谷市民の抱く熊谷次郎直実像

城所宏美

現在日本では、都心への人口流出による地方の過疎化が進んでおり、地方創生や地域活性化の取り組みが重要視されている。その中で「地域ブランド」を使った取り組みがある。これは、地域固有の風土、歴史、伝統文化などのエピソードを選び出して物語としてまとめ、地域イメージを作り上げ、「地域ブランド」として売っていくというものである。

本研究では、埼玉県熊谷市の偉人である熊谷次郎直実のエピソードに着目した。熊谷次郎直実（1141～1207）とは平安末期から鎌倉初期にかけて活躍した熊谷郷（現在の埼玉県熊谷市）の武士である。源平合戦における一の谷の戦いで平敦盛を討った話が有名で、『平家物語』や歌舞伎「一谷嫩軍記」など、文学や演劇の世界でも語られている。また、のちに出家して法力房蓮生と名乗った人物である。この熊谷次郎直実のエピソードは多数残されており、市民も熊谷次郎直実に対して数多くの印象を抱いている。そのため、これらのエピソードを整理し、現在の熊谷市民にとっての熊谷次郎直実はどのような人物像であるのか、またこの人物像は何に由来しているのかを明らかにすることを目的とした。

研究手法としては、文献調査を用いた。熊谷市立熊谷図書館の地域資料の中から①熊谷市郷土文化会誌 1-71 巻、②熊谷直実関係文献集成 1-4 巻、③熊谷直実（法力房蓮生法師）に関する文献一覧の中から熊谷市立図書館、熊谷市、熊谷市郷土文化会が刊行した文献を対象とし、熊谷次郎直実の人物像に対する記述とその記述の由来を調査した。

熊谷次郎直実の人物像を見る基本文献としては、『吾妻鏡』、『平家物語』、幸若舞「敦盛」、歌舞伎「一谷嫩軍記」、『法然上人絵伝』巻 27 がある。しかし熊谷市立熊谷図書館の地域資料には、これらの基本資料に見られる人物像以外の記述が多くあり、理想の直実像を作り出すための創作やアレンジが行われたと考えられる。このことから、熊谷市民の抱く熊谷次郎直実像とは、地域の誇りとなるように理想化された人物であると結論づけることができた。本研究では熊谷市民の抱く熊谷次郎直実像がどのようなものなのかを調査するに留めたが、この理想化された熊谷次郎直実像がどのように地域固有の社会や風土、伝統文化と融合しているのかを理解することで、「地域ブランド」としての熊谷次郎直実の意義を見ることができると考えられる。

（指導教員 白井哲哉）